

小田急沿線
自然ふれあい歩道

お散歩ガイド

伊勢原駅(市民の森ふじやま公園)コース

大山の麓に広がる懐かしの里地を味わう



[2010年10月1日更新]



ルート 合計約7.7km

メインルート 伊勢原駅 1270m、渋田川 1500m、専大グランド脇 1200m、龍散寺 1570m、ふじやま公園 640m、東海大病院 470m、市民文化会館 970m、伊勢原駅

サブルート 専大グランド脇 1870m、龍散寺



凡例	
	メインルート
	サブルート
	道路
	鉄道
	高速道路
	川・池
	緑地
	畑
	公園・果樹園
	広場・運動場など
	水田
	建物
	① みどころ
	Point... ワンポイント解説
	遊びの小川
	ビューポイント
	信号機
	カメラ
	神社
	寺
	看板・道標
	あずまや

伊勢原駅(市民の森ふじやま公園)コース

大山の麓に広がる懐かしの里地を味わう



コース詳細

4 歩道沿いの植物2



ホトケノザ

大山が望める畑の中の歩道には、春にはホトケノザの花が咲き誇ります。名前の由来は、葉が茎を抱くように付きそこに花を輪状に付ける様子を、仏の台座に見立てたことによりです。本種は食用にはならないため、春の七草にあるホトケノザと称されているものは、コオニタビラコであるといわれています。また、上空ではオオタカの飛翔が観察されることもあります。

メモ

ホトケノザ： シソ科の2年草／3月～5月に赤紫色の花をつける／高さは10～30cmで北海道以外の畑地や路傍に見られる／別名をサンガイグサ（三階草）と呼ばれるのは、葉が数段になるため

オオタカ： かつては鷹狩りに使われた代表的なタカ／樹林で繁殖し、小～中型の鳥獣を補食／種の保存法に基づく国内希少野生動物種に指定され、営巣地における開発計画がしばしば問題になる

5 里地の風景



水田や畑、果樹園、雑木林などが点在する里地の風景が眼下に広がり、水田や畑の土手にはノカンゾウやツリガネニンジン、ツルボ、センニンソウなどの草花が見られます。温暖な土地柄を生かしてミカンをはじめナシ、ブドウ、カキ、モモ、クリ、キウイフルーツなど多くの果樹園が見られ、春の花を楽しむとともに、収穫期には直売所で秋の実りを味わうこともできます。

メモ

ノカンゾウ： ユリ科の多年草／7月～8月に燈赤色の美しい花がつくが、1日ではしぼむ／里地の路傍や水田のあぜなどに生育

ツルボ： ユリ科の多年草／土手や草地に生育／8月～9月に淡紫色の小さい花が密生する／かつて鱗茎は救荒植物として利用された

センニンソウ： キンポウゲ科／つる植物で、8月～9月に白い十字型の花をたくさん付ける／名前は種子に付いた長い毛を、「仙人」のヒゲに例えたことによる

6 キリの大木



キリの大木



キリの花

切り通しの山道を越えたところに、桐の大木がそびえています。桐は有用材として古くから各地で植栽されてきました。5月～6月ごろ、枝先に淡紫色の唇形花を多数付けます。日本の木材の中で最も軽量で、湿気に強く、狂いが少ない優良材としてタンスや琴などに利用されています。

メモ

キリ： ゴマノハグサ科の落葉高木／樹高は10m／5月～6月に枝先に長さ5、6cmの淡紫色の唇形花を多数付ける／優良材としてタンスなどに使われ、昔、女の子が産まれると苗木を植えた

伊勢原駅(市民の森ふじやま公園)コース

大山の麓に広がる懐かしの里地を味わう



コース詳細

7 龍散寺



1557(弘治3)年に北条氏ゆかりの寺として創建され、江戸時代には將軍より朱印状を授かった歴史を持っています。1989(平成1)年に樹齢800年のクスノキを一本彫りした高さ3.5mの伊勢原聖観音が建立されました。隣接する斜面地は、手入れが行き届き、遊歩道も整備されています。境内にはシャクナゲ、サルスベリ、ヤマザクラなどの花木やエビネ、シャクヤクなどの草花が多く植えられ、「東国花の寺百ヶ寺」に選ばれています。

メモ

シャクナゲ： ツツジ科の常緑低木／山地の尾根や急峻な地形に自生／3月～6月に花が付き、多くの園芸品種がある

サルスベリ： ミソハギ科の落葉高木／中国原産／夏にピンク色などの美しい花をつける／名前の由来は、サルでも滑り落ちるほどの滑らかな幹による

エビネ： ラン科の多年草／ランの仲間で、落葉広葉樹林に生育／4月～5月に、萼片が紫褐色、唇弁が淡紅紫色の2色が組み合った花をつける／乱獲のために自然の個体数が激減している

シャクヤク： ボタン科／中国原産／花期は4月～7月で大きく美しい花が付き、多くの園芸品種がある

8 市民の森ふじやま公園



小高い丘にあるサクラ(ソメイヨシノ)の名所で、見ごろになると多くの花見客でにぎわいます。春のフジ、早春のウメも美しい花を咲かせます。また林床には、春にタチツボスミレ、ヒトリシズカのほか、ヤブレガサの面白い姿も見られます。夏にヤマユリ、オカトラノオ、夏～秋にキツネノカミソリ、ヤブミョウガ、ヒヨドリバナ、ミズヒキ、ヌスビトハギなどの花が咲きます。林内にはコゲラ、ヤマガラ、シジウカラ、メジロ、オナガなどの鳥が訪れ、樹液に集まるカナブンやコクワガタなどの昆虫も観察できます。

メモ

ヤマユリ： ユリ科の多年草／7月～8月に白色の大きく美しい花がつく／園芸品種で有名なカサブランカは本種をもとに交雑しつくりだされた／鱗茎は百合根と言われ、古くから食用とされる

オカトラノオ： サクラソウ科の多年草／6月～7月に白い小さな花が密生する／長い花序をトラの尾に例えたもの

ヤブミョウガ： ツユクサ科の多年草／葉がミョウガに似る／8月～9月に白い花をつける／湿った半日影地に群生

ヒヨドリバナ： キク科の多年草／草丈が高く、8月～10月に白色や淡紫色の頭状花をつける。舌状花はない

ヤブレガサ： キク科の多年草／春の若葉がすぼめた傘のようであることからこの名前が付いた

オナガ： カラス科の鳥で、尾羽が長く、頭は黒色、羽は青色／「ギャア、ギャア」という鳴き声を発する。いつも家族を中心とした群で木々を移動する

カナブン： 夏に現れる甲虫で、金属光沢の体をしている。クヌギやコナラの樹液に集まる

10 伊勢原市総合運動公園



公園には、県内唯一の掘割式野球場やレストラン・武道場併設の体育館、自由広場、トリムの森、展望広場などがあります。丘の上の展望台からは、大山や伊勢原市街地などが眺望できます。雑木林には、クヌギやコナラをはじめ、エノキ、ホオノキ、ミズキ、エンコウカエデなどの樹木が見られ、林床には、春にムラサキケマン、キランソウ、タチツボスミレ、シュンラン、夏にはホタルブクロ、夏～秋にはミズヒキなどの花を見ることができます。

メモ

ホオノキ： モクレン科の落葉高木／葉の長さは40cm程度、花の直径は15cmを超える／葉は食べ物を乗せる皿として利用

ミズキ： ミズキ科の落葉高木／林縁に多く成育し、5月～6月ごろ、小さく密生した白花をつける／名前の由来は、枝を切ると樹液が水のように滴り落ちることか

シュンラン： ラン科の多年草／春蘭という名前のとおり里の春を象徴するラン／花は緑色で雑木林に生育

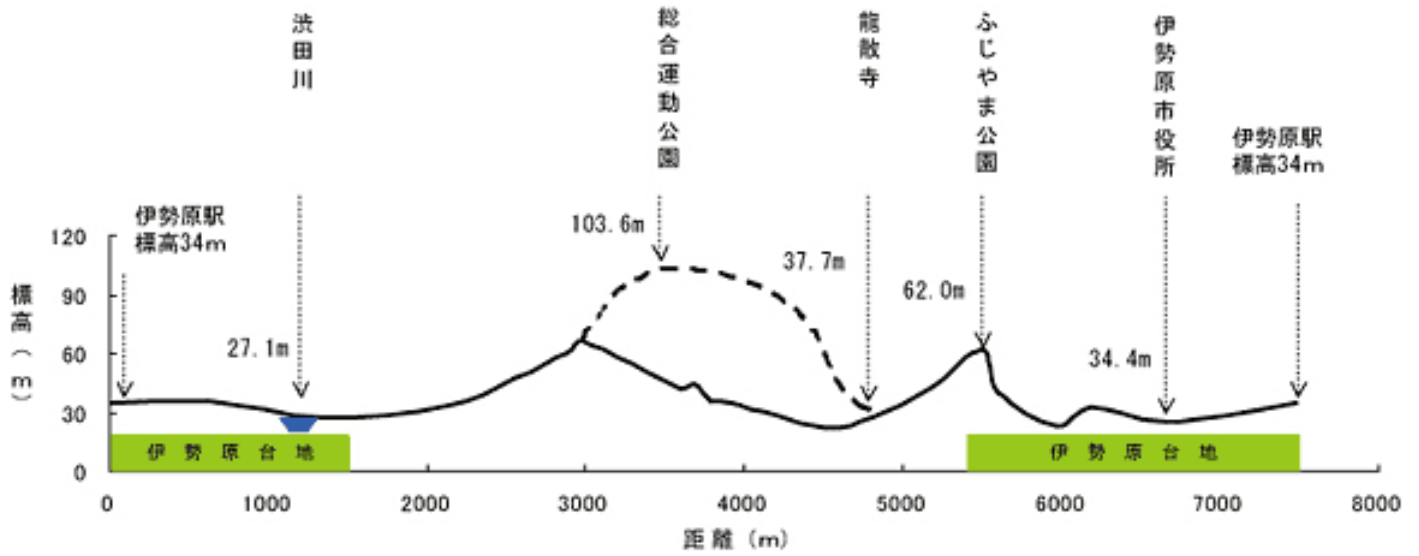
ホタルブクロ： キキョウ科の多年草／夏に白やピンクの袋状の花が咲く／名前の由来は、「花にホタルを入れて遊んだから」や、「火垂る袋である提灯に見立てたから」などといわれている

伊勢原駅(市民の森ふじやま公園)コース

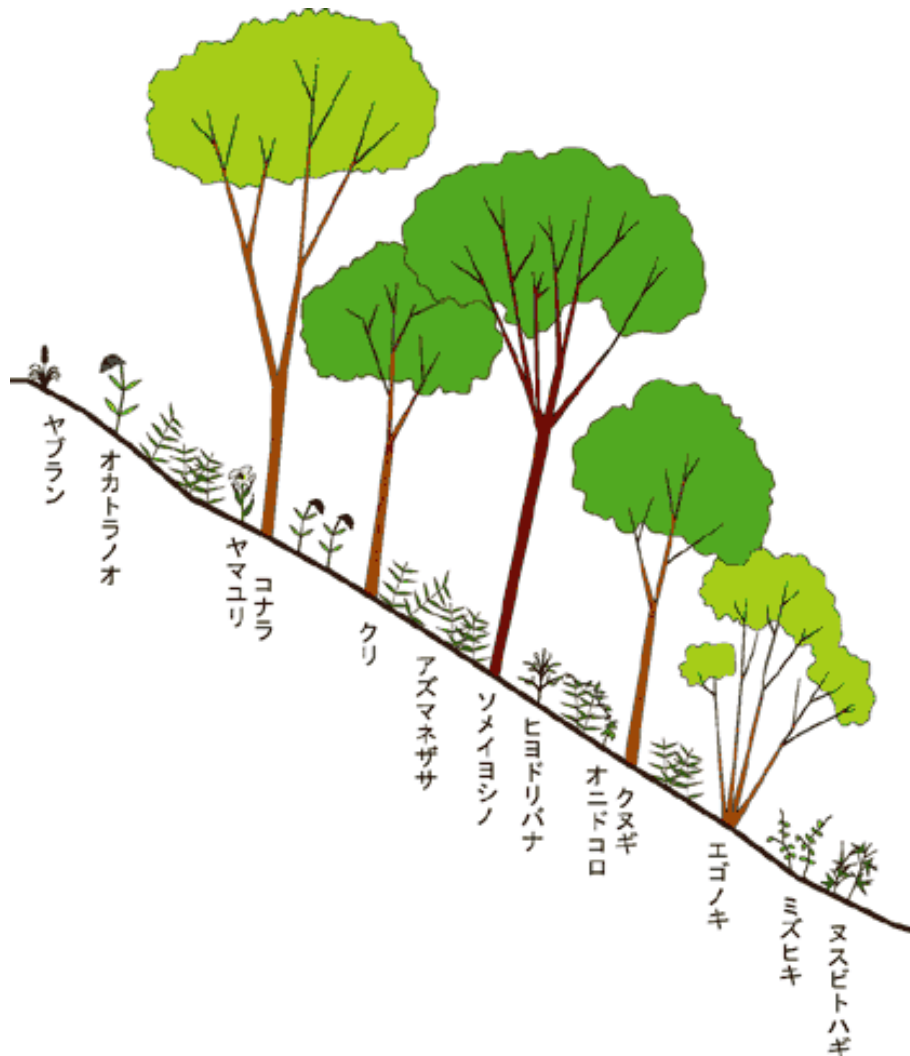
大山の麓に広がる懐かしの里地を味わう



コースの地形縦断面図



市民の森ふじやま公園階層区分図



伊勢原駅(市民の森ふじやま公園)コース

大山の麓に広がる懐かしの里地を味わう



A large rectangular area for writing, featuring a top border of small circles and horizontal dashed lines for text alignment.